

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006 年～2008 年度

課題番号：18320099

研究課題名（和文） 国家・共同体・家における〈母〉機能の意義と変遷
-〈男〉を育てる〈女〉の比較文化史-

研究課題名（英文） comparative study of the “motherhood” in states, communities and households

研究代表者

高田 京比子（TAKADA KEIKO）

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号：40283668

研究成果の概要：アメリカ文学におけるマスキュリニティー研究の成果を摂取しながら、日本史・東洋史、西洋史における母-息子関係の比較研究を行った。2006 年度に 3 回、2007 年度に 5 回、2008 年度に 1 回の研究会と合宿発表会を持ち、それぞれの研究成果を発表して討論を行った。2008 年には「家長権をめぐる〈母〉機能の比較史」というタイトルで比較家族史学会に於いてミニシンポジウムを行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	6,300,000	1,890,000	8,190,000
2007 年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2008 年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
年度			
年度			
総計	166,000,000	4,980,000	21,580,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：ジェンダー・家族

1. 研究開始当初の背景

男性と女性の非対称性、「階級」や「市民」など一見中立な概念が如何に「男性的」であるかを鋭くついたジェンダー論において、従来の研究は次のような議論に終始することが多かったと思われる。すなわち、政治・経済・学問などの「公的」領域が男性にあてがわれ、女性には家庭という「私的」領域があてがわれた、さらに後者に比べて前者が優位にたち、価値あるものと見なされたという議論である。またジェンダーのメタファーが、西洋／東洋、理性／感性などさまざまな領域の非対称性と呼应していたことも指摘され

ている。しかし、男女にあてがわれた役割のうち、母と息子というのは、このようなジェンダーによる非対称性がおそらく唯一自明になっていない例であろう。母は息子を産み出すことができる。さらに儒教的な長幼の序を重視すれば息子は決して母より上に立つことはできない。またキリスト教社会においても、しばしば子は両親を尊敬すべきであるといわれるのである。ジェンダー化された社会に於いて、母と息子はどのような関係を取り結ぶことができたのか。本科研のテーマの設定は、このような素朴な疑問から始まった。さらに、単なる生物学的な母-息子関係に限

定することなく、より広く、「男性性」形成への「女性」の関与を問うことを目的として、課題を設定した。

2. 研究の目的

①日本の歴史学界に於いて女性史の成果が蓄積して久しい今日、<母>機能、すなわち母親が遂行した、あるいは母親に期待された役割についても多くの研究成果が発表されている。そのたいていは母性愛・出産・養育など生物学的性別としての女性しか遂行できない、あるいは女性にもつばら期待されてきた機能についての研究が中心であった。また母役割が「母性（産む）」という機能に集中して取り上げられた結果、いわゆる生母が考察の対象となる傾向が強かった。しかし女性が果たす<母>役割は「母性（産む）」だけではない。生母、育ての母、乳母、法的意味での母、宗教的・精神的な意味での母など、諸社会集団において多様な<母>がそれぞれの機能を果たしていたのである。日本女性史の新しい分野を切りひらいた女性史総合研究会は、1980年代以降、『日本女性史』『母性を問う』『日本女性生活史』『ジェンダーの日本史』などパイオニア的な研究を世に問う中で、各時代の国家や貴族社会や民衆社会が女性に要請する母性を明らかにしてきた。そこで課題のひとつとして浮かび上がってきたのが、上で述べたような「母」機能の多様性に応じた綿密な考察の必要である。本研究では、このような研究状況を受けて、まず第一に、家や親族といった「私」的領域における<母>の役割を考察するだけでなく、できる限り国家や共同体といった「公」的領域における<母>の役割を明らかにする。

②歴史学にジェンダー概念を導入するに当たって先陣を切ったのは西洋史であるが、欧米の学界では女性史においてもジェンダー史においても、親子関係より夫婦関係が重視される傾向にあり、母が考察の対象となり始めたのは比較的遅かったように思われる。宗教社会史の分野では、「母」のイメージが果たす役割が重視されてきているようだが、日本人研究者による邦語でのまとまった研究成果は出されていない。その一方で、英米の学界では近年さらに進んでマスキュリニティ（男性性）が注目を浴びるようになってきている。マスキュリニティの研究なくしてジェンダーは語れないのではないかと思うほど研究が蓄積しつつあり、日本でもドイツやアメリカにおける「男性史」が紹介されている。「男性性」が自明でなくなり、それが社会的・文化的構築物であると明らかにされつつある研究状況に鑑みれば、「男性性」形成への「女性」の関与を問う視点はますます重要となろう。従って、本研究では、家や社会に

おける<母>機能を問う場合、従来よく論じられてきた娘に限定することなく、史料が許す限り「息子＝男性」との関係性の中で考察しようと試みる。

③すでに女性史総合研究会も課題として指摘しているように、女性史・ジェンダー史の比較研究はこれまで必ずしも十分ではなかった。日本史・西洋史・東洋史でそれぞれ研究の厚みや方向性が異なり、人的交流が必ずしも円滑に進んできたとは言えないからである。そこで、3番目の目的として、比較史の視点をとり入れる。

3. 研究の方法

各自が自身の専門分野に於いて、あらたな史料を探し、討論の中でその史料の意義付けを探る。また、アメリカ文学、日本史、近代ドイツ史を中心にジェンダー論や母性の研究、マスキュリニティ研究の動向を紹介してもらった。研究会のレジュメ、質疑応答はアルバイトの大学院生が記録をとり、全員に配布し、皆で議論を共有することを目指した。最終年度は合宿方式で各自の研究成果を発表し、集中的に討論を行った。

4. 研究成果

①母と息子の関係を示す史料がほとんど見あたらないような社会もある一方、「息子に教育を施す母」だけでなく、「息子を勘当する母」「息子を折檻する母」が見られる社会も存在することが明らかになり、あらためて比較史の有効性が確認できた。

②前近代の「家」においては、女性が家長を代行する事例や、家長権の遂行が妻・母・姉妹などの女性を介したネットワークに支えられながら維持されていく事例が複数観察できた。近世日本の家訓においては父母の二分はみられず、親としての機能が優越しているという指摘もある。この指摘と先の事例研究を発展させ、2008年秋の比較家族史学会では、「女性がなかば恒常的に家支配に参加することを可能にするシステムが潜在的に存在し、それらが家長不在や家長の無能などのある特殊な状況下で顕在化すると想定」した日・東・西比較のミニシンポジウムを行った。

③女性（特に母親という立場）と権力や公領域との接点の存在、ジェンダー差と世代差のなかで展開される母と息子の力学の多様性、親から父母への分化の問題、乳母を含めた女性を介したネットワークの重要性などが指摘できた。各自が出版を目指して論文を執筆し、報告書として印刷した。また、報告書の内容は、さらなる企画・検討を経て、学術書としてミネルヴァ書房から来年度に出版予定（内諾有り）である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

- ①小浜正子「上海女性は帝王切開がお好き？」『アジア遊学』119, 2009, 138-147, 査読あり
- ②福長進「『栄花物語』の描く万寿二年」『日本文藝研究』60, 2009, 1-22, 査読あり
- ③三成美保「学界展望『ジェンダー史』の課題と展望」『西洋史学』229, 2008, 42-42; 査読あり
- ④河村貞枝「イズレアル・ザングウィルとイギリス女性参政権運動」『女性史学』18, 2008, 17-31, 査読あり
- ⑤三成美保「ジェンダー概念の展開と有効性—学際的協力の可能性」『ジェンダーと法』5, 2008, 72-83, 査読あり
- ⑥田端泰子「平安・鎌倉期の乳母の役割」『ひょうご歴史文化フォーラム会報』第6号、2008、1-5 査読有り
- ⑦田端泰子「中世の坐態からみた衣と住—肖像画・風俗画・故実書を素材として—」『世界人権問題研究センター研究紀要第13号』、2008、241-263、査読有り。
- ⑧田端泰子「日本中世の出産の光景と病の看病」『京都橘大学歴史文化研究所紀要』第16号、2008、102-120、査読有り。
- ⑨山本秀行「David Henry Hwang の<家族劇>再読」『神戸大学文学部紀要』35、2008、35-51、査読なし
- ⑩小浜正子「中華人民共和国初期の上海における人口政策と生殖コントロールの普及」富田武・李静和編『家族の変容とジェンダー—少子高齢化とグローバル化の中で—』日本評論社、2006、219-237、査読なし
- ⑪TAKADA Keiko "Commissarii mei Procuratores Sancti Marci». Ricerche sulle competenze dell' ufficio della Procuratia di San Marco

(1204-1270)", Archivio Veneto. V serie, vol. CLXVI. N. 201, 2006, 33--58, 査読あり

⑫長志珠絵 村上信彦『明治女性史』、コラム「日本版歴史修正主義論争」、岩崎稔・上野千鶴子・成田龍一編『戦後思想の名著50』平凡社、査読あり、2006、363-374、623-626

[学会発表] (計 7 件)

- ①Asako Kurihara "Graphai idiai: a sense of community in Athenian civic prosecution", The 3rd Euro-Japanese Colloquium for Greco-Roman World, 2009. 3. 27-29, Tokyo
- ②小浜正子「アジアのリプロダクション—出産現場から見る現状と変化」日本助産学会、2009. 3. 21、東京
- ③小浜正子「計画生育的開端—1950-60年代的上海」近代華人社会公衛史討論会、2008. 12. 27、台北・中央研究院歴史語言研究所
- ④高田京比子・森紀子・山辺規子・島津良子「家長権を巡る母機能の比較史」比較家族史学会、2008. 11. 8、椋山女学園星ヶ丘キャンパス
- ⑤長志珠絵「追悼の政治と占領期のマスキュリニティ」国際シンポジウム『グローバル時代の植民地主義とナショナリズム』2007年10月10日、立命館大学
- ⑥小浜正子「中華人民共和国成立後の言語空間の変容—新聞紙上の生育問題関連言説から」国際シンポジウム『中華人民共和国成立前後における都市社会・文化の変容—空間と生活の再編』2007年9月23日、日本大学
- ⑦小浜正子「从“非法墮胎”到“計画生育”—从建国前后性和生殖言說的變遷看公私界線重構」第2届中国城市社会与大眾文化討論会、2007年7月14日、成都

[図書] (計 6 件)

- ①三成美保、姫岡とし子・川越修編『ドイツ現代ジェンダー史入門』青木書店、2009 (担当ページ 43~68ページ)

- ②田端泰子「再生産される中世の女性-正室・側室・後家尼の権限と役割-」『母と娘の歴史文化学』白地社、2009（3-28頁）
- ③河村貞枝、姫岡とし子他『ジェンダー』（近代ヨーロッパの探究 第11巻）ミネルヴァ書房、2008、（分担箇所63-109ページ、および巻末1-4ページ）
- ④山本秀行『アジア系アメリカ演劇-マスキュリニティの演劇表象』世界思想社、2008（296頁）
- ⑤京楽真帆子『平安京都市社会史の研究』塙書房、2008、349頁
- ⑥河村貞枝・今井けい編著『イギリス近現代女性史研究入門』青木書店、2006、129-140

研究者番号：70111911

福長 進 (FUKUNAGA SUSUMU)
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：90189960

森 紀子 (MORI NORIKO)
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
（平成21年3月まで）
研究者番号：50241154

山本 秀行 (YAMAMOTO HIDEYUKI)
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究者番号：90230581

京楽 真帆子 (KYORAKU MAHOKO)
滋賀県立大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：00282260

(3) 連携研究者

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高田 京比子 (TAKADA KEIKO)
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究者番号：40283668

(2) 研究分担者

三成 美保 (MITSUNARI MIHO)
摂南大学・法学部・教授
研究者番号：60202347

小浜 正子 (OBAMA MASAKO)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：10304560

田端 泰子 (TABATA YASUKO)
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：20088016

栗原 麻子 (KURIHARA ASAKO)
大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号：00289125

山辺 規子 (YAMABE NORIKO)
奈良女子大学・文学部・教授
研究者番号：00174772

長志 珠絵 (OSA SHIZUE)
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授
研究者番号：30271399

河村 貞枝 (KAWAMURA SADAЕ)
流通科学大学・経済学部・教授